

大楠

47

2010 November
[平成22年11月]

Kumamoto Gakuen University
Library Bulletin

O a k s



図書館と
熊本の魅力を
皆さんに
お伝え
しました!

特集

Library Lovers' 奮闘記

九州地区大学図書館合同キャンペーン2010

Contents

- 1 館長エッセイ
- 2 特集「Library Lovers' 奮闘記」
- 5 News News・Information
- 7 図書館の現状—データベースの利用状況— 津村 秀夫
- 8 Staff column 辻 佳代

ラーニング・コモンズと 外国雑誌の価格高騰

最近の大学図書館をめぐる論議のなかでキーワードとなっているのは、ラーニング・コモンズという用語である。今年の私立大学図書館協会研究大会(9月10日、西南学院大学)の講演のテーマも「知の仕掛け、ラーニング・コモンズをどう捉えるか」であった。ラーニング・コモンズ(learning commons)とは何か。無理矢理訳せば、「学習共同(共有)空間」とでもなるのだろうか。その空間では、一人用の机が一定の距離をおいて配置されるのではなく、複数の椅子を配した円形テーブルが並ぶ。その空間では、静寂が原則ではなく、相互に情報交換しながら学習するのであるから、つねに「話し声」が聞こえることが原則となる。このようなラーニング・コモンズは、もともとは英語圏ではじまったようだが、日本においても、大阪大学、名古屋大学、東京女子大学などで設置されている。本学図書館にもグループ学習室はある。しかし静寂な空間からガラス戸で区切られた小空間ではなく、いわばフロア全体が、複数の小さなグループによる共同学習の空間であるらしい。このような「新たな図書館」について語れば、「おまえは図書館をなんだと思っているの

だ」とお叱りをうけそうである。しかしラーニング・コモンズの問題が日本において議論され、すでに実施している大学があることには、理由もあるようだ。それは大学における伝統的な授業形式の反省と結び

ついている。大学での講義は、ともすれば一方通行的なものになりやすい。それにかえてコミュニケーションとチームワークを重視した授業へという取り組みとの関係で、この問題があつかわれているように思われる。従来の個人学習スタイルとともに、コミュニケーションをとった学習スタイルを、ということであるらしい。ラーニング・コモンズの問題については、本学図書館は今後勉強していかなければならない課題である。それは、結局、大学全体として取り組んでいる学習支援の取り組みにおいて、図書館がいかなる役割をはたすことができるか、これを時代の変化のなかで考えることであるように思われる。

しかし図書館のかかえる問題はそれだけではない。数年前より取り上げられている外国雑誌価格高騰問題である。九州・中国・四国地方の私立大学をみれば、ここ数年価格高騰にたいして購入雑誌の数をへらしている。2005年度から2008年度への推移をみれば、本学の購入雑誌数は増え続けている(表参照)。これもたんに購入雑誌数の削減ということではなく、電子ジャーナル化との関係で検討していかなければならない。



村松 茂美
Muramatsu Shigemi

経済学部教授。
2008年1月より図書館長。
[専門分野] イギリス社会思想史

■外国雑誌受入種数 2005年度と2008年度の比較
(中国・四国・九州の10大学)

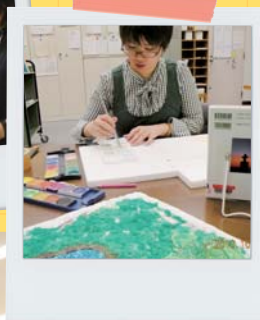
	2005年度	2008年度	増 減
広島経済大学	394	369	-25
広島修道大学	1,061	833	-228
松山大学	701	565	-136
九州産業大学	979	857	-122
久留米大学(御井図書館)	1,064	1,027	-37
西南学院大学	1,661	1,557	-104
福岡大学	2,806	2,600	-206
立命館アジア太平洋大学	438	648	210
沖縄国際大学	433	438	5
熊本学園大学	1,087	1,333	246

日本図書館協会「日本の図書館2006、2009」より

2010年は
「国民読書年」です。

平成20年(2008年)6月の国会決議により2010年を「国民読書年」とすることが定められました。これにより、関連団体や各地の図書館でさまざまな催しが行われています。キャッチフレーズは“じゃあ、読もう。”

2010
国民読書年



特集

Library Lovers 奮闘記

九州地区大学図書館合同キャンペーン2010
10.27~11.9
in 熊本学園大学図書館

図書館と
熊本の魅力を
皆さんに
お伝え
しました!



Library Lovers'って?

今回本学図書館も参加した「Library Lovers' キャンペーン」は、九州地区の国立大学図書館を中心に、今秋の読書週間(10/27~11/9)を「Library Lovers' Week」として、参加館共同のイベント、または各館独自のイベントを企画し実施するものでした。本学図書館では図書館スタッフだけではなく、図書館の学生アルバイト、一般の学生からもスタッフを募集し、計画・準備・実行を行いました。

この特集では、キャンペーンに関わった図書館スタッフたちの奮闘を紹介しつゝ、スタッフたちの思いは一つです。

「図書館は“出会い”の場、
図書館をもっと身近に感じて欲しい!」



熊本って面白い!?

資料テーマ展示

01



には何でもない場所でも、ある人にとっては特別な場所だったりします。そんな“私”だけの熊本の魅力を、みんなで共有したいという思いからスタートしました。

展示班は話し合いを心がけました。何を伝えたいのか、どんな方法で進めるのか、どう見せるか、などなど。それぞれの頭にあることを刷り合わせることの難しさ、大切さを学ぶ良い機会になりました。

何より、楽しんで作業にあたれたこと、それが一番の収穫です!

図書館にある本を喜・怒・哀・楽に分けて展示しました。



Library Lovers' 奮闘記

(Home) 図書館と熊本

くまもとの魅力を旅する

ショーケース展示

02



ショーケース展示班では、“くまもとの魅力を旅する”というテーマで立体的に見せる熊本作りに力を入れました。

一人一列ずつ4段の棚を使い、黒川温泉・阿蘇・SL・熊本城・天草をペーパークラフトや発砲スチロールで表現し、集中して作業が必要のため、自宅に持ち帰って作業することもありました。

実際に完成して眺めてみたとき、“くまもっていいな…”と純粋に熊本人である喜びを感じ、ますます熊本が好きになりました。



映画・ドキュメンタリーで感じる熊本の力

Lovers' シネマ

03



シネマ班は、熊本に関係のある映像資料を期間中に上映しました。5人のスタッフを中心に作業を進めていき、ちらしやポスターの作成、一作品に数冊の関連本を選び、ポップをつけて展示をしました。展示では各自工夫し、毎回素敵な展示になりました。AVホール当番では、全図書館スタッフ、学生アルバイトにも手伝ってもらい、スムーズに上映することができました。観に来てくれた利用者の皆様、スタッフのみんなに感謝いたします。



熊本学園大学のテーマ

Sweet Home, KUMAMOTO

～素敵な街、熊本 魅力的な場所、図書館～

の魅力を皆さんにお伝えしました!



04

図書館を切り取ろう!

フォトコンテスト



今回のテーマ「熊本の魅力」を掘り下げると同時に学生の生活の一拠点となっている「図書館の魅力」も探ろうという企画案が上がり、初の試みであるフォトコンテストをイベント内容に加えました。

応募期間をおよそ1ヶ月設け、24名の学生と職員から応募がありました。イベント期間中は「Lovers'写真展」として1階メインカウンター横の書架を利用し展示を行いました。応募作品はどれも、個人にとってのいつもの空間がユニークに切り取られていました。

今回のフォトコンテストは、普段目にする図書館内の風景でありながら、いつもと違う雰囲気や気づかないことを感じさせてくれたりと、自分の支えとなっている身近な人やモノや空間を見つめなおす機会を与えてくれました。



1 オープンキャンパス 2010

7月17日、8月1日、10月2日は学内でオープンキャンパスが行われ、3日間通して図書館には1,065名の高校生と保護者が見学に訪れました。

図書館では恒例の「ライブラリー探検」を開催。「データベース体験」のほか、新たに「学生時代に観たい映画100」の上映と展示、また1階フロアでは「外国語」「スポーツ」「ホスピタリティ」「経済学」「社会福祉」のテーマ展示を実施しました。スタッフお薦めのポップ付きの展示資料を見た高校生からはたくさんの発見コメントが寄せられました。



2 図書館実習

司書資格の取得を目指す本学学生の実習受入・指導を毎年行っています。この実習は講義・演習で学んだ理論を、実際に現場で実践することにより、具体的な技術の習得を図ることを目的とするものです。本学では第一部の全学科で、この資格取得のための課程を設けており、実習は「図書館特論」として4年次での選択科目となっています。

今年は2名の学生が10月22日から29日までの一週間で館内の各係を一巡。図書・雑誌の受入、目録業務、閲覧業務、雑誌・視聴覚資料の利用提供、レファレンス業務と、毎日さまざまな種類の仕事を手がけ、司書という仕事に理解を深めながら、毎日張り切った表情でそれぞれの課題に取り組んでいました。

3 帯山中学校 ナイスライ受け入れ

「ナイスライ事業」は帯山中学校からの依頼を受け、毎年行っているものです。今年は、6名の実習生を受け入れ、10月20日～22日まで3日間にわたり、図書館の業務全般の仕事を体験してもらいました。実習生たちは皆、本を読むのが好きだったり、図書委員の経験があったりで、本の分類や並べ方、取り扱い方にとても慣れた様子で意欲的に取り組んでいました。

3日間の仕事を終えた実習生たちからは、「図書館の作業は思っていたより大変でした。」といった感想が述べられました。



4 機関リポジトリ ワークショップを共催

平成22年度の「国立情報学研究所学術機関リポジトリ構築連携支援事業」による「新XooNIPsの開発/Libraryモジュールの開発と普及」プロジェクトの活動として、ワークショップを代表機関である慶応義塾大学との共催で、11月5日に本学で開催しました。

このワークショップは、九州では別府、長崎につづき今回で3回目となるものです。講師陣を含め40名の参加となり盛況でした。前半は事例報告、後半は演習として実際にサーバを立ち上げ「これならやれる」という実感を持ってもらえるようなプログラムで、参加者の満足度は高かったようです。

質疑応答と意見交換でワークショップは幕を閉じましたが、その後の懇親会でも発表者を囲んで熱心なやり取りが続きました。本学としても場所を提供することで大いなる勉強の場を得ることが出来ました。



5 熊本県立松橋高等学校 インターンシップ受け入れ

去る10月19日にインターンシップ事業として、熊本県立松橋高等学校の2名の学生が就業体験実習を行いました。図書館では初めてのインターンシップ受け入れとなります。

閲覧・参考業務では図書の配架チェックや参考図書の棚移動を行いました。力仕事も多く、重い書籍を並べる際は互いに協力しながら最後まで真面目に取り組んでいました。普段利用している高校の図書館との違いを実感した様子で、今後の学生生活でも図書館の機能を大いに活用してほしいと思います。

[図書館からのお知らせ]



本学学生

1

パソコン利用方法の変更

学習用パソコンのログオン方法をe-キャンパスセンター(14号館自習コーナー)と統一しました。学生個人のID・パスワードでの利用が可能です。また、印刷管理システムもe-キャンパスセンターと統合し、A4サイズ以外の出力や両面印刷に対応いたしました。詳細は、図書館内の掲示やチラシをご覧ください。

※IDやパスワードが不明の方、大学院生・研究生・科目等履修生・交換留学生・非常勤講師でIDを持っていない方は、e-キャンパスセンター窓口へお問合せください。



本学学生

2

AVコーナーの地デジ化

AVコーナーでは、今年の3月末でCATVの利用を終了しました。また、地デジ化に伴い、テレビの入れ替え等を行いました。まだ全ブースで対応していませんが、現在は個室でのみ地上/BSデジタル放送の視聴ができます。BSでは、ドラマ、ニュース、スポーツなど様々な情報を発信していますので、授業の空いた時間等にご利用ください。そして、ほぼ全ブースでカートゥーンネットワークチャンネルが視聴できます。このチャンネルは、海外子供向けアニメチャンネルで易しい英語を使用しているので、ぜひ英語学習にご利用ください。





データベースの利用状況

はじめに

図書館で契約してサービスしているデータベースは、国内外あわせて22種あります。
学内のネットワークを介して利用できます。
利用促進のために国内14種のデータベースの紹介【表1】と利用状況をレポートします。

表1

ジャンル

名称

表2

アクセス回数(2009年度)

● 百科事典・辞典	1	ジャパンナレッジ	448 ログイン
	2	KOD研究社オンライン辞書	492 ログイン
● 雑誌記事・論文	3	MAGAZINEPLUS	2,754 ログイン
	4	CiNii	15,858 検索
● 新聞記事	5	朝日新聞『聞蔵Ⅱビジュアル』1945-	1,155 ログイン
	6	毎日新聞『毎日Newsバック』1987-	539 ログイン
	7	読売新聞『ヨミダス文書館』1986-	1,549 検索
	8	熊本日日新聞 1988-	2,057 アクセス
	9	日本経済新聞『日経テレコン21』1975-	113,225 検索
● 有価証券報告書	10	eol企業情報データベース	9,440 アクセス
● マクロ経済情報	11	日経 Financial Quest	86,434 アクセス
● 法律情報	12	LEX/DBインターネット	858 ログイン
	13	法律文献総合INDEX	399 検索
	14	税務・会計法規	---

●アクセス統計

来館型サービスの統計として、入館者数・貸出数は館報No.45でレポートしました。来館を前提としない本稿のようなデータベース利用統計の公開はあまり類を見ません。ふつうログイン回数とか検索ボタンを押した回数になっているようです。したがって他大学等との正確な比較もできませんが、とりあえずわかる範囲でレポートします【表2】。

①～⑨は学生のふだんからの学習に寄与するものですし、使い方も難しいものではありません。⑩～⑭は専門的になりますので、院生・教員がターゲットかもしれませんが、履修している科目によっては学生の必須アイテムともなっています。問題は表記のアクセス回数の多寡です。全体的に見て、ネット上に公開されている他大学との比較でも決して少ない回数ではないようです。

●収支バランス

支出はデータベースの契約料、収入はアクセス数です。全体(22種)で1,800万円くらい支出しています。仮に1日3回以上のアクセス、年間に1,000回を超えればペイするとすれば、達成半ばというところでしょうか。

おわりに

先述のように【表2】の数は、それぞれのデータベースの統計仕様で得られたもので同一基準ではありません。しかし経年の推移は確実に採れますので右肩上がりになるよう利用案内やガイダンス等で普及に努めることが大切です。学生から「新聞記事で見つけたデータをもとにゼミの発表が出来ました」とか「CiNiiで見つけた雑誌記事を参考にレポートが書けました」という報告がカウンターに届くようにしたいものです。

(図書情報課長 津村 秀夫)

今、テーマ展示が熱い!

梅

雨入りした6月、新入生オリエンテーションも一段落するこの時期から、図書館では毎月テーマに沿った展示を行う。

企画と管理を任せられたスタッフが指揮を取り、展示のイメージやコンセプトを皆へ伝え、情報を共有し計画的に準備を進めていく。担当以外のメンバーは、展示が予定期日にスタートできるようにと、サポートするのである。

利用者のニーズや関心を正確に把握し、反映させた「テーマ展示」は図書館スタッフの腕の見せどころでもある。アイデアを随所に取り入れ、センスよく見せる工夫が

施されている。

今年最初のテーマは「アフリカ～苦悩する大陸～」。サッカーのワールドカップにちなんで開催国の社会事情や文化を紹介した。常時30～40冊はあろうか、展示用テーブルに並べられた本の1冊1冊には手作りのポップが添えられており、熱いメッセージの記されたそれを眺めていると、思わず手に取りページをめくってしまう。貸出も徐々に増え好調な滑り出しであった。

夏休み期間中は「best of books ～スタッフが薦める小説100～」と題し様々なジャンルの本を紹介した。利用者からの「毎回楽しみにしている」という声も聞かれ、やる気が沸くとともに、責任も感じた。

また、テーマ展示と平行してオープンキャンパスで実施されるスタンプラリーに「ライブラリー探険」コーナーとして参加し、高校生向けの資料を展示した。参加した高校生へ展示資料の中から興味のある本を選び感想を出してもらい、また、高校生の保護者へも「大学は学生や教員へ何

をサービスしているのか」をアピールすることができた。

大学における「図書館」という施設は、学生生活に欠かせない存在であると私は思う。普段図書館へ足を運ばない学生にも、図書館の魅力を知ってもらえるよう、この「テーマ展示」で利用者と図書館を結びつけつくりになればと願っている。アピールの仕方や、学生へのニーズに応える目配りができる図書館となれば、さらなる活性化に繋がる。そして図書館のメリットを活かした学びの「場」として、新しいかたちを提供していくことができれば、より良い利用の促進にも繋がると思う。

(図書情報課 辻 佳代)



NEW CHARACTER!

図書館に新しいスタッフが仲間に加わりました!

今秋、Library Lovers'のイベントに合わせて図書館キャラクターが誕生しました。このキャラクターの名前は「ひのと」。今後図書館内の各ブースで見かけることになるでしょう。皆さま、新メンバー「ひのと」とども末永いお付き合いよろしくお願いします。

キャラクター誕生のいきさつ

産みの親である本山くんに話を聞きました。

「『ひのと』は、図書館オリジナルしおりに押されたスタンプのキャラクターから生まれてきました。もとの図案は私のオリジナルではありませんが、平面だった『ひのと』を立体的にさらに表情豊かにと試行錯誤しながら、今の『ひのと』を完成させました。最初スタンプを見たとき、四角い箱に手足耳がついていると思い制作を進めていたら、実はその体はぶ厚い本であると聞き、もう一度描き直したこともあります。またカラーバリエーションを20種類以上作り、その中から一番大学の雰囲気合う色を選びました。」

「『ひのと』の顔の中心に見られる「ト」の文字は、図書館を表す「図」をデザインしたものです。「ト」の文字には、情熱と熱意をイメージさせる色として赤を使っています。

また図書館のボスがウサギ好きのため、モチーフは自然とウサギに決まりました。



ひのと

キャラクターの名前

名前について

ひの

【日々の、日常の】

→日々、図書館を利用してほしい!利用者にとって日常的で身近な場所となりますように!という図書館スタッフの熱いメッセージがこめられています。

【火の、炎の】

→ポジティブに燃え続ける熊本学園大学と火の国の象徴としてデザイン化されている大学のマークにも見られる炎。「ひのと」はその弟分

と

【図書館のと、兎(ウサギ)のと】

性格について

図書館を盛り上げようとする情熱を内に秘めてはいるが、彼の表情や動きからはそれが読めない。



モトヤマ ユウト
本山裕人くん
国際経済学科 3年





Kumamoto Gakuen University
Library Bulletin

O a k s

Oaksとは…

当館のシステム名称、**Oe Aoba** Kumamoto Gakuen University Library Information **S**ystemの略です。本学の立地場所は、奈良飛鳥時代の古墳群の上に築かれ、この地を考古学上では、「大江青葉遺跡」といいます。Oaksとは、樫の木のことで大楠(おおくす)ともなります。

本学には、創立当時から風雪に耐え我々を見守ってきた高さ20m、幹回り4～5mに達する県木でもある緑豊かな楠の大木が数本あり、歴史の古さを象徴しています。これら歴史ある地と天高く聳え大地に大きく根をおろした大楠のように当館電算システムと学園の発展を願って命名しました。

携帯電話から本学図書館の蔵書検索ができます。



機種によっては、
正しく表示されない場合が
ありますのでご了承ください。



図書館日誌

2010年4月～2010年10月まで

図書館行事

- 4月 2日 ● 入学式
- 4月4日～7日 ● 新入生オリエンテーション
- 4月14日 ● 図書館ガイダンス
- 5月18日 ● 図書館委員会
- 6月20日 ● 熊本地区保護者懇談会 図書館開放
- 7月 3日 ● インターライブラリースポーツ大会
- 7月17日 ● オープンキャンパス図書館開放
- 7月30日～9月14日 ● 夏期休業特別貸出
- 8月 1日 ● オープンキャンパス図書館開放
- 8月 3日 ● 図書館委員会
- 9月30日 ● 学生懸賞論文募集締切
- 10月 2日 ● オープンキャンパス図書館開放
- 10月18日 ● 図書館委員会
- 10月20日～22日 ● 帯山中学校ナイスライ
- 10月22日～29日 ● 図書館実習
- 10月27日～11月9日 ● Library Lovers' week 開催
- 11月 1日 ● 図書館委員会
- 11月 5日 ● リポジトリワークショップ
- 11月16日 ● 図書館委員会

見学者・団体

- 5月24日 ● 熊本商科大学12期生(13名)
- 5月28日 ● 中村学園三陽高等学校(11名)
- 6月 4日 ● 大口高等学校(23名)
- 6月21日 ● 大田大学校経営学科1年生(61名)
- 6月22日 ● 鹿南中学校(22名)
- 6月23日 ● 慶誠高等学校(26名)
- 6月25日 ● オレゴン州高校訪問団(10名)
- 7月 7日 ● 鹿本高等学校PTA(22名)
- 7月 8日 ● 阿蘇高等学校(31名)
- 南稜高等学校(28名)
- 7月13日 ● 熊本中央高等学校(10名)
- 熊本国府高等学校(92名)
- 7月28日 ● 甲佐高等学校PTA(12名)
- 韓国古棧高校(135名)
- 7月30日 ● モンタナ州ブレインズ中高校生訪問団(9名)
- 8月 2日 ● 御船高等学校PTA(39名)
- 8月 4日 ● 荒尾高等学校(38名)
- 8月10日 ● 人吉高等学校PTA(16名)
- 9月14日 ● 多良木高等学校(110名)
- 10月15日 ● 湧心館高等学校(170名)
- 10月20日 ● 千原台高等学校(29名)

編集後記

図書館で初めて大々的に実施した今回のイベント「Library Lovers」。普段図書館を使ってくれているみなさんにはどのように映ったでしょうか？

貸出数、入館者数ともに年々減少していく中、図書館スタッフは利用者のみなさんに少しでも図書館のよさを知ってもらい、活用してもらえるよう日々奮闘しています。

「図書館は宝の山」です。“宝の持ち腐れ”にならないよう、図書館スタッフはこれからもがんばり続けます。

熊本学園大学 図書館報

大楠 第47号
2010年11月30日

編集・発行／熊本学園大学付属図書館

〒862-8680 熊本市大江2丁目5番1号

TEL (096) 371-8047 (直通) FAX (096) 362-5967

<http://www.lib.kumagaku.ac.jp/>